

105 明治時代 松方・伊藤・大隈・山県・伊藤・桂



<第二次松方正義内閣>※ **松隈内閣**

初期議会では衝突してばかりだった政府と政党が、歩み寄り始めました。政府も政党の協力なしでは1円も予算が通らず苦勞しました。政党も地租軽減法案を衆議院に提出して衆議院では可決しても、貴族院で否決されるので地租軽減が実現しません。なお、このころ立憲改進黨は少数政党と合併したので「進歩党」と名称変更していました。

進歩党と協調、**大隈重信** 入閣(外相)

藩閥勢力側は、対ロシア戦に備えるため軍備拡張したいのです。政党とも仲良くなりました。松隈内閣とよばれるほどです。それで、軍備拡張のために地租増徴したいなと思いました。しかし、政党の悲願は地租軽減なので、地租増徴はもってほかのです。「それだけはかんべん」と言います。でも松方は地租増徴をあきらめません。政党は協力をやめ、松方内閣はつぶれました。



<第三次伊藤博文内閣>(超然内閣)

政党の協力が得られないので、超然内閣に戻りました。憲政党が出現して議会運営の見通しを失い、総辞職しました。

1898 **憲政党** 成立

板垣退助率いる自由党と、大隈重信率いる進歩党(旧立憲改進黨)が合併して巨大政党が出現しました。藩閥政府の目指す地租増徴を、何としても防ぐためです。



<第一次大隈重信内閣>(政党内閣)

● 憲政党内閣。

● **最初の政党内閣!**

● 大隈総理、板垣内務大臣。※ **隈板内閣**

● 地租増徴を防いだ後は、仲間割れ。

旧自由党系の議員と、旧進歩党系の議員は、決して考え方が一致しているわけではなかったからです。自由党はフランス流議会政治、進歩党はイギリス流議会政治を目指しました。

→ **共和演説事件** で総辞職。

尾崎行雄 文部大臣の「失言」

「もし日本が天皇のいない共和国だったら、財閥の三菱・三井が大統領に当選するね。今の日本の政治はそれだけ金権政治になってしまっている。」→皇室になんと失礼な!

憲政党が二つの党に分裂しました。旧自由党系が憲政党、旧進歩党系が憲政本党を名乗りました。

<第二次山県有朋内閣>(超然内閣)

政党勢力がもめているうちに、政党の影響が官僚に及ぶのを防ぐための政策を次々と実現した内閣です。

1900 **文官任用令の改正**

文官は帝国大学を出て専門知識を持ち、文官試験に合格した者に限り、政党員が高級官僚になれないようにしました。



政党は嫌いじゃ

1900 **軍部大臣現役武官制** の制定

軍部大臣の資格を軍人の現役の大將・中將に限りしました。政党員が陸軍大臣や海軍大臣になれないようにしました。

1900 **治安警察法** 公布

産業革命、工業化が進み、工場労働者が増えてきました。労働運動やストライキも増えてきたので、その規制を強化する法律です。治安維持法と並ぶ戦前の悪法とされました。

● **地租増徴案(2.5→3.3%)** 衆院通過

憲政党と憲政本党のうち憲政党のほうの議員の協力を得てロシアに備えた軍備拡張のための地租増徴を実現させました。

● **選挙法** 改正

国政選挙権の納税資格を15円から10円に引き下げました。

1899 **北海道旧土人保護法** 公布

アイヌ民族を日本民族に同化させる法律です。アイヌ文化が減ることになってしまいます。1999年に廃止されました。

1900 **立憲政友会** 結党

旧憲政党(自由党系)の議員を集めて作られました。戦前最大の政党に成長して、何度も政権を担当する政党になりました。

<第四次伊藤博文内閣>(政党内閣)

衆議院の過半数を占めた立憲政友会を与党とする政党内閣です。衆議院と協調できますが、今度は「伊藤め、藩閥出身のくせに政党なんぞ作って」と貴族院の反発を受けてつぶれました。伊藤博文は、自信をなくしてしまいました。

山県と伊藤、第一線を退いて **元老** となる。内閣の背後から影響力を行使した。

<第一次桂太郎内閣>(超然内閣)

山県の子分で山県と同じ長州閥の桂太郎が組閣しました。バックには元老の山県がいます。山県のカイライのような超然内閣です。